

シンポジウム概要

【社会情報と情報メディア ～図書館情報学を架橋に～】

本シンポジウムは社会情報学会と情報メディア学会の共催ということを前提に、双方の分野の架橋となるであろう図書館情報学を交えながら、現在の学問の実際や社会の在り方について検討する。両学会で鍵概念となっている「情報」と「メディア」と「地域」(社会)との関係について議論することにした。その議論の過程で、情報の「意味」や「数値化」、社会情報、情報メディア、図書館情報の学問の存在意義などについても取り上げていく。

また、近年社会的に注目の集まる「地域参画」の観点も交えて、社会情報と情報メディアの論点を打ち出していく。

登壇者プロフィール

【パネリスト（発表予定順、敬称略）】

河井孝仁（かわいたかよし）

博士（情報科学・名古屋大学）。東海大学文化社会学部広報メディア学科教授。専門は、行政広報論、シティプロモーション、地域マーケティング。公共コミュニケーション学会会長理事、日本広報学会常任理事、総務省地域情報化アドバイザー、総務省地域力創造アドバイザー。内閣官房「全世代型社会保障に関する広報の在り方会議」委員、埼玉県「効果的な広報に係る調査研究事業有識者会議」座長などを務めた。『シティプロモーションでまちを変える』（彩流社）、『「関係人口」創出で地域経済をうるおすシティプロモーション 2.0—まちづくり参画への「意欲」を高めるためには—』（第一法規）『「地域の人」になるための8つのゆるい方法』（彩流社）など著書多数。

長谷川幸代（はせがわゆきよ）

跡見学園女子大学文学部専任講師。中央大学文学部兼任講師。中央大学文学研究科博士課程後期課程修了。博士（社会情報学）。専門は、社会情報学（メディア利用、情報倫理）や図書館情報学（利用者研究）。著書『情報資源組織論』（共著、東海大学出版会、2020）、『情報サービス論』（共著、ミネルヴァ書房、2018）。その他「Society 5.0時代の情報倫理観」（コミュニケーション文化 16号、2022）、「図書館利用と読書の関係性に対する考察」（跡見学園女子大学文学部紀要 57号、2022）等。公共図書館の図書館サービスや運営、利用者ニーズ等を研究し、自治体の図書館関連委員会等に参加している。

西田洋平（にしだようへい）

東海大学ティーチングクオリフィケーションセンター社会教育学系講師。東京大学大学院

学際情報学府博士課程単位取得退学。東京薬科大学非常勤講師、早稲田大学非常勤講師などを経て現職。主たる研究テーマは、自律システムとしての生き物の存在様式と、それに根ざした情報現象の理解。『人間非機械論：サイバネティクスが開く未来』（講談社）を近刊予定。

【コメンテーター】

後藤嘉宏（ごとうよしひろ）

筑波大学図書館情報メディア系教授。慶應義塾大学仏文科卒。東京大学大学院社会学研究科社会学 B（新聞学）専攻修士課程修了（東大新聞研究所の大学院）。同博士課程単位取得満期退学。博士（比較社会文化 九州大学）。図書館情報大学助手等を経て現職。著書『中井正一のメディア論』（学文社）。日本社会情報学会（JSIS）の立ち上げに奔走する故廣井侑教授に何度か付き添い、また情報メディア学会の設立準備の様子も間近で見ている。

【進行】

河島茂生（かわしましげお）

青山学院大学准教授。青山学院大学革新技术と社会共創研究所所長。早稲田大学・理化学研究所・総務省情報通信政策研究所にて客員研究員。東京大学大学院博士後期課程修了、博士（学際情報学）。専門はメディア研究、情報倫理。主な著書として、『未来技術の倫理』（勁草書房、2020）、『AI 倫理』（共著、中央公論新社、2019）、『AI × クリエイティビティ』（共著、高陵社書店、2019）など。近年は、情報倫理の基盤づくりを行い、それをもとに人工知能・ロボット・サイボーグをめぐる倫理について検討している。また、未来における倫理的創造性についても研究している。